

平成十五年度(二〇〇三年度)活動報告

(1) 懇話会および研究会

懇話会

第一回

日時 五月九日(金)

報告者 別所良美(名古屋市立大学人文社会学部教授)

論題 「歴史の真実」と「ネイション・ステイト」

第二回

日時 六月十三日(金)

報告者 梅津光弘(慶応義塾大学商学部専任講師)

論題 「日本における企業倫理の受容」

第三回

日時 七月十八日(金)

共催 南山大学社会倫理研究所、「人間の尊厳」科目委員会

報告者 松原洋子(立命館大学大学院先端総合学術研究科教授)

論題 「新生児聴覚スクリーニング導入問題における障害モデルの対立」

第四回

日時 九月十九日(金) 午後四時三〇分

共催 南山大学社会倫理研究所、「人間の尊厳」科目委員会

第五回

日時 九月二十六日(金) 午後四時三〇分

共催 南山大学宗教学文化研究所、南山大学社会倫理研究所

報告者 William La Fleur (Pennsylvania 大学教授)

第六回

日時 二月二十一日(土) 午後二時〇〇分

報告者 玉井真理子(信州大学医学部保健学科助教授)

診断問題

第七回

日時 二〇〇四年三月十一日(木)

報告者 秋葉悦子(富山大学経済学部経営法学科助教授)

張、瓊方(佛科学技術文明研究所特別研究員)

統一演題 「生命倫理を考える視点…普遍主義的立場と文脈主義的立場と」

研究会

第一回

日時 十月十七日(金)

共催 南山大学社会倫理研究所、南山大学法学会

第二回

日時 十二月十二日(金)

共催 南山大学社会倫理研究所、南山大学数理情報学部

報告者 杉原桂太（社会倫理研究所非常勤研究員）

論 題 「技術者倫理で大切なのは何か？」

—「経営者による amoral calculation」の夢から覚めて—

その他

南山学会と共催

日 時 二〇〇三年六月二十五日

報告者 坂下浩司、奥田太郎

統一テーマ 「応用倫理と倫理の応用—実用性をめぐって—」

(2) 出版物の刊行

名 称 「社会と倫理」第十五号

発行日 二〇〇三年七月十五日発行

名 称 「社会と倫理」第十六号

発行日 二〇〇四年二月二十五日発行

二〇〇三年度を振り返って

第一種研究所員の任用

本年度は、二名の第一種研究所員の新規採用を行った。一名は奥田太郎講師で四月一日付採用である。もう一名はマイケル・シーゲル助教で十月一日付採用である。これで、山田秀教授を含め、第一種研究所員が三名となり、研究所の体制は整備されたことになる。奥田太郎講師には、応用倫理学を中心とした研究活動と、この地域におけるネットワーク構築をお願いしている。シーゲル助教には、キリスト教の立場から、戦争と平和の問題を中心に、研究者だけではなく実践的活動を行っている人々との連携による新たな研究プロジェクトの立ち上げをお願いしている。今後とも、社会倫理研究所の活動にご期待いただきたい。

新たな活動

本年度は、いくつかの新たな活動に乗り出した。一つは、長年の懸案であったホームページの開設である。夏休み前から検討をはじめ、十月一日に開設にこぎつけた。是非ご覧いただきたい。

また、従来の懇話会、研究会を録音してテープ起こしを行い、講演者の校閲と許可のもと順次ホームページに掲載していくことにした。懇話会などに参加できなかった方々にも、その内容や雰囲気をお伝えしたいと思っている。

その他、第一種研究所員と第二種研究所員の協力のもと、「あんな本、こんな本」という連載コーナーも設けた。これは、本研究所に関わる研究所員が、自らの読書体験のなかで見つけた「ちよつと気になる本」を紹介するコーナーである。大量の出版物の洪水の中、他分野の本にまで目が届かないのが現実であるが、とりわけマイナーな出版社から出版されていると、面白い本も見落とされがちである。そういった本を出来るだけ取り上げてみたいと思っている。

その上で、研究所の各種活動を広報するために、月一回の研究所ニューズレターをホームページを通じて発行することにした。また、懇話会、研究会の広報も、従来の方式に加え、各種のメーリングリストに流すなどの工夫を行った。幸い、参加者が増えつつあり、今更ながらネット社会の持つ情報流通の力を痛感している。

本年度は、さらに研究所活動を構造化するた

め、プロジェクトを発足させた。これは「科学技術研究倫理」という名称で、第一種研究所員の奥田講師と第二種研究所員坂下助教を中心に名古屋大学大学院生杉原桂太氏、名古屋大学大学院生熊田氏をメンバーとして活動を開始している。

今後の活動について

二〇〇四年度以降も、社会倫理研究所は活動を活性化していく予定である。特に、各種応用倫理については、広く関心が高まっているが、名古屋地区ではそういった問題を議論する場が少ない。社会倫理研究所としては、当面、技術倫理と生命倫理を中心に懇話会を開催し、この地域の方々の交流の場を提供したいと考えている。本号の特集は、その最初の試みとして二〇〇三年度三月に開催した「生命倫理ワークショップ」の成果の記録でもある。今後とも、継続していきたい。

また、二〇〇四年度からは、杉原桂太非常勤研究員が、学術振興会の特別研究員として社会倫理研究所に滞在され、研究員として活動を開始することも決まっている。技術倫理に関する懇話会も企画していきたい。

さらに、シーゲル第一種研究所員を中心に、日本とオーストラリアの対アメリカ、対アジア外交の現状を平和の構築という視点から批判的に検討するプロジェクトも始まる予定である。随時、懇話会を開催していく予定であり、皆様の積極的な参加をお願いしたい。二〇〇五年もしくは二〇〇六年にはオーストラリアの研究者を招いてシンポジウムを開催することも計画している。

(小林傳司)